

和牛甲子園で優良賞に選ばれた肥育班の生徒ら＝養老町祖父江、大垣養老高校



「和牛甲子園」の取組評価部門 大垣養老高が優良賞

全国の高校生が和牛肥育の技術を競う、全国農業協同組合連合会（ＪＡ全農）の「第７回和牛甲子園」の取組評価部門で、養老町祖父江の大垣養老高校が優良賞に選ばれた。

大会には全国25道府県から41校が出場。県内からは3校が4頭を出品し、枝肉の肉質を評価する部門と、取り組み発表を評価する部門で審査を受けた。

昨年は、総合評価部門で最優秀賞に輝いた同校。今回は動物科学科の肥育班が2年5カ月育てた「陽和多号」を出品した。校内で繁殖

から一貫生産している点や、農家でつくる改良組合に加入して交流してきた点などが評価された。

ＪＡ全農岐阜の小島嘉晃畜産部長らが5日、同校を訪れ、出品した飛騨牛の精肉4キを贈った。小島部長は「地域と連携しながら技術を高めてきた結果」と健闘をたたえた。

大会で取り組みを発表した肥育班の3年塚田彩結さん(18)は「枝肉は小ぶりになってしまったが、一番こだわってきた脂の質は高く評価され、うれしかった」と振り返った。（亀山大樹）